

第84回 グローバルクラシックコンサート

輝けるチェロの名手 クリストフ・ボー来日記念

ヨーロッパの薫り

伝統あるヨーロッパの星“クアルテット・ラベル”のチェリスト、クリストフ・ボーが、フランスそしてスペインの曲を中心にヨーロッパの薫りをお届けします。



©TAIKAN USUI

ゲスト
新しいジャンルへ挑戦する
ソプラノ歌手 大岩千穂



クリストフ・ボーとの長年の
共演者、ピアニスト 勝呂真也



クリストフ・ボー

主な曲
サンサーンス／白鳥
フォーレ／夢のあとに
グラナドス／オリエンタ
ロドリゴ／恋のアランフェス
カサド／親愛なる言葉
ラフマニノフ／ヴォカリーズ
バッハ／無伴奏ソナタ 第1番 ト長調 プレリユード、クランテ

©Hiroaki Ota

2007年11月28日(水) 19:00開演(18:30開場) 津田ホール(東京・千駄ヶ谷)

全席指定：3,000円(税込)

GLOBAL

主催 株式会社 グローバル ユース ビューロー

協賛 東京海上日動火災保険株式会社

企画 グローバルカルチャーイベント株式会社

お申し込み TEL 03-3505-0055 月～金 10:00～18:00 / 土 10:00～17:00 (日・祝休み)



クリストフ・ボー チェロ

Christophe Beau

1967年生まれ、6歳からチェロを始める。1988年パリ音楽院入学、アンドレ・ナヴァラそして、イワン・シフォロー等のフランスの伝統を受け継ぐ巨匠の下で研鑽を積み、1992年プロミエプリ<金賞>を獲得、卒業。その翌年フランス・モーツァルト協会のフランス代表としてプラハに留学、室内楽をシャンドー・ベーク音楽理論をシャルル・ローゼンに学ぶ。

1995年から教授としてカンのコンセルヴァトワールを経て現在パリのコンセルヴァトワール教職活動をしながら、ソロ活動、室内楽活動<クアルテット・ラヴェルヴィルチオーゾ・ドゥ・フランス、アンサンブル・アクロシュノート>と広い範囲に演奏活動をしている。レパートリーはクラシックから現代曲まで幅広く、ソロで出しているCDもユニークなものばかりで、フランスでは大変個性ある演奏家として評判が高い。

特にその暖かい人間性と高い教養の持ち主として、また、料理人としてもパリでは人気者である。

数々のマスタークラスを経験したクリストフ・ボーは1994年に彼自身が音楽総監督として、フェスティヴァル・エクラン夏季音楽祭を開催、現在までに200回を超えるコンサート、そして1000人を超える講習生を出している。

1999年より、クアルテット・ラヴェルのメンバーとして日本を訪れ、すでに5回を超える来日である。日本に対する憧憬も高くすでに浄瑠璃、歌舞伎、能と興味は尽きない。



大岩 千穂 ソプラノ

Chiho Oiwa

1996年イタリア、フラヴィアーノ・ラポー国際声楽コンクール第一位。第一回国際オペラコンクールin Shizuoka最高位および三浦環賞他数々の国際コンクール入賞。1998年ハンガリー国立歌劇場で『ボエーム』のミミ、2001年ヴェニスフェニーチェ劇場で『蝶々夫人』のタイトルロールを歌い絶賛された。2002年フロリダパームビーチ・オペラでレナータ・スコット演出『蝶々夫人』でアメリカデビューを果たし、日本では新国立劇場で当たり役の『ミミ』で大成功を収めた。

昨年は二期会公演でも『ボエーム』のミミを演じ、その後続けて佐渡裕指揮『蝶々夫人』、若杉弘指揮『海賊』で成功を収めている。リサイタルやオラトリオにも力を注ぎ、来年はヴェルディ(9月)、ブラームスのレクイエム(11月)、リサイタル(2月白寿ホール、8月大賀ホール)、オペラでは、沼尻竜典指揮『サロメ』主演(10月びわ湖ホール)が決まっている。五島財団、江副育英会、文化庁在外研修員、ローム財団からの賞を受賞。

大岩千穂ホームページ <http://opera.coolblog.jp/>



勝呂 真也 ピアノ

Maya Suguro

国立音楽大学ピアノ科卒。横井正子、池澤幹男、阿部富美子に師事。'97年クイーンエリザベス2ワールドクルーズ・オフィシャルコンサートで古澤巖と共演。'98年よりグローバル海外コンサートシリーズに出演、'99年からグローバル・カルチャーサロン、フィランソロピープロジェクトのコンサートに定期出演。'01年から毎年、フランスのクアルテット・ラヴェル来日公演シリーズで共演。国内外でヴァイオリンの古澤巖、天満敦子、西田博、クアルテット・ラヴェル(弦楽四重奏)、ルドヴィート・カンタ(チェロ)、許可(二胡)らと共演。